

(別紙2)

## 審査の結果の要旨

氏名 李 洋陽

本論文は、近年中国社会での反日感情の高揚、反日騒動の多発という社会的背景を踏まえ、中国人のいなく日本人イメージについて実証的にその実態と構造を明らかにした上で、その形成要因を具体的に検証したものである。本論は、以下の五章からなる。

第一章では、中国人の日本人イメージを歴史的枠組の中で捉えるために、人々に深甚な影響を残した「清末・民国初期の来日中国人留学生の日本人観」を中心に、「中国社会の伝統的日本人観」について考察した。具体的な分析手法として、当時の留学生たちによって書かれた留学日記と文学作品に対する内容分析が用いられている。第二章では、本研究のために中国大学生を対象に実施した質問紙調査による量化分析を行ない、中国人の日本人イメージが多面的構造によって成り立つことを明らかにした。第三章では、日本人関連情報の比較的多い「国語」および「歴史」教科書と「愛国主義教育映画」に対して内容分析を行ない、「中国の学校教育（愛国主義教育）」に見られる日本人像を探った上で、実証的調査データとも合わせその影響を解明している。第四章では、中国人が日本人を知る上での情報源利用の実態を明らかにし、テレビ・新聞・書籍・インターネット・ラジオが伝える日本関連情報の内容とそれぞれの影響を具体的に考察している。第五章では、在日中国留学生を対象に実施した聞き取り調査の結果と、中国における大学生調査の結果をもとに、日本人との接触による「パーソナル・コミュニケーション」が中国人の日本人イメージ形成に与える影響を分析した。終章では、それまでの考察を総括し、中国人の日本人イメージは、学校教育や直接的な日本人との接触のほか、とくに若年層ではマンガやテレビドラマも含めたメディアの影響力が増大しており、近年ではインターネット情報も少なからぬ影響があることを分析している。

このように、本論文は中国人の日本人イメージを、質問票調査から明らかにしただけでなく、その形成過程における「中国社会の伝統的日本人観」「中国の学校教育（愛国主義教育）」「中国メディア」「パーソナル・コミュニケーション」といった四大形成要因の具体的影響についても多面的に究明している。従来に関連研究では、中国人の日本人イメージと、各種情報源の提示する日本・日本人像に対する現状把握に留まるものがほとんどである中で、本論文は、中国人の日本人イメージの形成過程に焦点を当て、日本人イメージそのものと、情報源などの形成要因による影響を有機的に結合して論考した点において、この種の研究の分野に新たな地平を切り開いたものとして高く評価できる。

世代差や地域差、対米イメージとの比較等、今後、分析を深めるべき課題も多々残しているものの、本論文で示した成果と研究手法をさらに発展させるならば、当該研究領域において多大な功績を残すことになる。そのために必要な視座と学識は、本論においてすでに十分披瀝されている。

よって、本審査委員会は、本論文が博士(社会情報学)の学位を授与するにふさわしい水準に達しているものと判断する。